

コミュニティが創り出す 街の賑わい

スペースア的

地域コミュニティ

の活かし方

～ 再開発ビルと商店街とが共存する街づくり～

村井 亮治

愛知県春日井市の西の玄関として位置づけられたJR中央本線勝川駅周辺では、地域全体の整備事業「ルネッサンスシティ勝川」が、大詰めを迎えつつある。勝川地区は、行政による基盤整備、施設整備及び都市機能の向上と既存の駅前商店街による組織・地域のコミュニティとが共存し、活性化を進める地域として注目されている。



勝川大弘法通商店街の「弘法市」の風景。毎月第3土曜日開催。夏場は宵市と名づけられ夕暮時から開催される。

進む再開発事業

JR中央本線勝川駅北地区で施行中の勝川地区第一種市街地再開発事業（以下、勝川地区再開発）は、二〇〇五年十一月に施設建築物の工事が着工し一年が経過した。現在では、各建物の躯体も立ち上がり、その姿が徐々に見え始めてきている。勝川駅周辺は、土地区画整理事業、立体換地ビルの建設や二つの市街地再開発事業により大きく変わってきている。

勝川地区再開発は、駅前商業地の再開発事業として店舗と鉄道駅近接による利便性の高い分譲マンションの供給を柱に計画され進められてきた。商業施設は、五百坪からなる大区画とテナントの二層にあわせて三十坪から柔軟に対応できる区画のフロアが計画され、駅前商業地にふさわしいテナント誘致を進めてきている。また、勝川駅から国道十九号へと通じる「勝川駅前通商店街（通称 勝川大弘法通商店街）」に面する街区には従来商店街で営業をしていた権利者店舗が入店する長屋形式の路面店舗を配置し、商店街との連続性に配慮した計画となっている。

既に一部の店舗は昨年末にオープンし、今後も順次建物が完成し店舗のオープンやマンションへの入居、駐車場の運用が開始されることとなる。

商店街の取り組み

勝川大弘法通商店街では、若手商店主らが中心となり、毎月定期的に集客イベントが開催されている。それは、「勝川弘法市」と名づけられ、家庭の不用品等を販売するフリーマーケットではなく、商業者や市民らの出店による「市」を開くもので、開催時間帯は商店街を遊歩道にして通りの中心にお店となるカラフルなテントが並べられ、出店者のセンスで商品陳列やディスプレイが施される。毎回多数の集客があり、出店者にテントが二百メートル以上にも達する盛況ぶりである。

商店街では、二一年から弘法市の他、夏祭り等を通して年間百十九万人を集客する街をつくる「プロジェクト九九」事業を展開している。この事業は、大型SCが乱立する厳しい環境の中で、商店街として長期的な目標をたて地域に密着した活動により周辺住民と共有している。これまでの熱心な取り組みによる成果は毎年着実に現れてきているようにみられ、目標が達成される日も近いのではないだろうか。

リサイクルサミットで全国にアピール

そんな勝川では、昨年の九月「全国リサイクル商店街サミット春日井大会」が開催された。これは、リサイクルや環境問題の視点から商店街活性化とまちづくりを考えるサミットで、東京の早稲田商店会の活動がきっかけとなり全国に広がり、「全国リサイクル商店街サミット」として平成十一年から開催され、第九回となる昨年は、春日井大会として勝川地区で開催された。商店主らは、地元勝川が舞台となるサミットということで、商工会議所や行政とともに一年以上前から準備にかかり、開会式には、小池百合子環境大臣（当時）も出席され会場は大いに沸いた。二日間に亘り、分科会、全体会議が開催され、ともに多くの参加者の中で進められ大成功を収めた。さらに、パ

ネルディスカッションの「会議」だけではなく「交流会」として弘法市も臨時に開催され、地域住民らの多くの来場に参加者も驚きながらも市を楽しまれていた。地元商店街のメンバーは、自分達の活動を全国からきた参加者にアピールする絶好の機会となり、とても満足した表情だった。



全国リサイクル商店街サミット春日井大会、パネルディスカッション。パネリストらが熱のこもった議論を展開。

外から移り住む住民にも商店街の様々な行事への理解を求め共に楽しんでもらう取り組みも必要になるだろう。街づくりをとりまく環境は、まちづくり三法の見直しによる新たな中心市街地活性化策が打ち出され、計画策定には、基盤整備、都市福祉施設、住宅供給、商業活性化といったメニューがあげられている。勝川は、土地区画整理事業や勝川地区再開発により、魅力ある商業施設整備や良質な住宅の供給といったハード整備は充実しており、そこに地元商店主らのソフト的な活動が加わることで新しい中心市街地活性化のモデルとしてふさわしい地域になるのではないだろうか。サミットを成功させた地域の組織力とコミュニティにより、今後も賑わいと魅力ある街づくりが進められることに期待したい。

新しい中心市街地活性化のモデルへ
勝川の街は、商店主らの組織力と商店街の良好なコミュニティにより支えられ、市内で最も賑やかな商店街として形成されている。今後は、勝川地区再開発が完成し新しい商業施設ができ、そこへ入店する商業テナントも商店街の一角に加わるようになるが、そうした外部テナントと勝川を盛り上げるためにどう共存するかが課題となるだろう。それとともに、多くのマンションが供給され勝川以



建物の建設工事が進む再開発地区。年明け以降、商業、駐車場、マンションの各建物が順次完成する予定。テナントも募集中。

マンション戸数 245 戸
店舗床面積：約 5,300 m²（全体）
駐車場施設収容台数：358 台

勝川地区市街地再開発組合HP
<http://www.o-cobo.com/~saikahatsuj/>
勝川大弘法通商店街HP
<http://www.o-cobo.com/>